

【農政情報】

## 松山市で新嘗祭への献穀が行われる！

11月23日に皇居で行われた「新嘗祭」の献穀者として、「精米」は松山市南高井町の井門 裕昭さんが、「粟」は松山市西石井の西岡 洋司さんがそれぞれ本県の代表に選ばれ、天皇皇后両陛下お出ましの下、立派に献納を終えられました。

新嘗祭は、天皇陛下自らが全国から献納された新穀をお供えになり、五穀豊穰と我が国農業の繁栄を祈願されるものであり、宮中において最も由緒ある重要な儀式となっています。



皇居での献納式  
西岡御夫妻(前列左)、井門御夫妻(前列右)

この献穀は、農業振興を目的として明治25年以来、全都道府県で取り組まれており、愛媛県では精米と粟について、旧12郡単位の持ち回りで実施され、平成27年は旧温泉郡（松山市・東温市）の篤農家から両氏が選ばれたところです。

米のお田植式は6月13日、粟の播種式は6月9日にそれぞれの献穀田において厳かに執り行われ、お二人とも「これまで培った農の心と技を生かし、秋の収穫まで全力を尽くしたい。」との決意を述べられました。栽培管理には大変気を遣われたとのことですが、無事に実りの秋を迎え、10月29日に皇居での献納式において、精米一升、粟5合を献穀する運びとなりました。



井門氏献穀田



お田植式



西岡氏献穀田



粟播種式

お二人の今後ますますの御活躍をお祈りいたします。